

フランス・ドゥ・ヴァール 著  
西田利貞・藤井留美 訳

『利己的なサル、他人を思いやるサル』

(草思社)

本書は、大学で心理学を教えるかたわら霊長類の研究を長く続けている著者が、動物行動学の視点から人間の本質をさぐる興味深い本です。

サルには手足の不自由な仲間を助ける思いやりの心を持ったものや、食べ物仲間たちにうそをついて独り占めするものもいるそうです。いったいこの二面性はどこからうまれてくるのか、利己的なはずの動物にモラルはなぜうまれてくるのかを、著者の豊富なサルたちとのエピソードの中から、鋭く分析している一冊です。

489.9-Waa (N.K.)

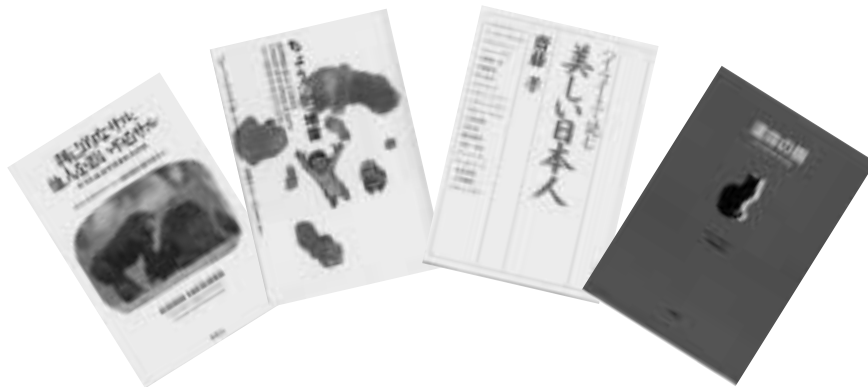
齋藤 孝 著

『ハイライトで読む美しい日本人』

(文藝春秋)

著者は、日本人や日本文化について書かれた多くの本の中から名著と呼ばれるものを選び出し、6種類の切り口を通して眺めた場合のように見えてくるかを、解りやすく紹介しています。「菊と刀」や「日本人とユダヤ人」などの内容の一部がテキストとして引用され、小学生高学年から読めるようにと、かなり多くのルビが振られていて、大変読みやすくなっています。アイデンティティを確立しようとしている人にとって、昔の日本人の姿からポジティブな面を受け入れていけば、勇気と誇りが湧いてくることでしょう。

361.42-Sai (F.O.)



ジーノ・ストラダ 著 荒瀬ゆみこ 訳

『ちようちょ地雷:ある戦場外科医の回想』

(紀伊國屋書店)

上空からひらひらと蝶のように舞い降りてくる小さな対人地雷、「ちようちょ地雷」。そのターゲットは子どもたちといわれ、めずらしがって手にとって遊んでいるうちに爆発し、手足や視力を奪ってしまうのです。現在の戦争や紛争による犠牲者の大半は、女性や子どもをはじめ武器を持たない人々という悲しい事実があります。そのような紛争地域で医療活動を行ってきた外科医による本書は、戦場の過酷な現実とそこに生きる人びとの姿が、苦しいほどにありありと伝わってくる一冊です。

498.04-Str (H.T.)

アニー・デュペレ 著 薮崎利美 訳

『運命の猫』

(人文書院)

幼いころに両親を不慮の事故で失い、少女時代の記憶を亡くした著者の前に、偶然現れた2匹の猫。猫との運命的な出会い、芽生えた友情、猫の闘病、やがて迎える猫の死。そして、少女時代のトラウマに苦しむ著者を黙って受け容れ、見守り続ける猫。本書は自然体で短い寿命を生きる猫たちとの触れ合いを通して綴られた自伝的エッセーです。

著者のデュペレはフランスの女優で、舞台や映画で知られている一方、作家としても活躍しています。

778.235-Dup (N.T.)